

空色の着物をきた子供

小川未明

青空文庫

夏の昼過ぎでありました。三郎は友だちといっしょに往來の上で遊んでいました。するとそこへ、どこからやってきたものか、一人のじいさんのあめ売りが、天秤棒の両端に二つの箱を下げてチャルメラを吹いて通りかかりました。いままで遊びに気をとられていた子供らは、目を丸くしてそのじいさんの周囲に集まって、片方の箱の上を立てたいろいろの小旗や、不思議な人形などに見入ったのです。

なぜなら、それらは不思議な人形であって、いままでみなみなが見たことがないものばかりでした。人形は新しいものとは思われないほどに古びていましたけれど、額ぎわを斬られて血の流れたのや、また青い顔をして、口から赤い炎を吐いている女や、また、顔が六つもあるような人間の気味悪いものの外に、鳥やさるや、ねこなどの顔を作ったものが幾つものやらあります。片方の中には、あめが入っていると思われませんでした。みんなは、これまで村へたびたびやってきたあめ売りのじいさんを知っています。しかし、そのじいさんはどうしたか、このごろこなくなりしました。そのじいさんの顔はよく覚えていません。けれど、だれも今日この村にやってきたこのじいさんを知っているものはなかったのです。

じいさんはチャルメラを鳴らしながら、ずんずんと往來をあちらに歩いてゆきました。やがて村を出尽くすと野原になって、つぎの村へゆく道がついていました。

「なんだらうね、あの人形は？ 口から血が出ていたよ。僕はあんなすごい人形を見たことがないよ。」と、三郎がいました。

「僕だって見たことがないよ。あのあめ売りのじいさんは、はじめて見たのだよ。」と、友の一人がいました。

「もつとそばへいつてよく見ようか？」と、またほかの一人が、こわいもの見たさにいったのであります。

「ああ、いつてみよう。」といつて、三郎とその二人がじいさんの後を追いかけてゆきました。こわがつてゆかずに往來に止まっていたものもあります。三人は、やがて野原の中をゆくじいさんに追いつきました。じいさんは赤い色の手ぬぐいでほおかむりをしていました。じいさんは知らぬ顔をしてさつきと歩いていきます。その後から三人は、ひそひそと話しながら、じいさんの前になつて箱の上をのぞいていますと、突然、

「このじいさんは人さらいだよ。」と、三人の後方から小声にいったものがありました。三人はびつくりして後ろの方を振り向くと、空色の着物をきた子供が、どこからかつい

てきました。みなはその子供をまったく知らなかったのです。

「このじいさんは、人さらいかもしれない。」と、その子供は同じことをいいました。これを聞くと三人は頭から水をかけられたように凄然として逃げ出しました。

三郎は野原の中を駆け出しました。ほかの二人ももってきた道をもどりました。すると、だれやら、三郎の後を追っかけてきました。三郎は自分独り道のない、こんなさびしい野原の中へ逃げたのを後悔しながら、なおいつしようにけんめいになって逃げますと、「君、もうだいじょうぶだよ。」と、後方から声をかけました。三郎は二度びっくりして振り返ってみますと、先刻の空色の着物をきた子供が、自分の後ろについてきたのであります。

「ああ君かい。僕は、またじいさんがおいかけてきたのかと思って、いっしょうけんめいに逃げたよ。」と、三郎ははじめて安心しました。けれど、三郎はかつて、こんなところへきたことがあります。そして、二人の友だちがあちらへ逃げてしまつて、自分独りでありましたから心細くなつてきました。

「僕の家の方は、どつちかしらん。」と、四辺を見まわしますと、

「あの森が、君の家のあるところだよ。君はあの森を見て帰ればゆかれるよ。」と、空

色いろの着物きものをきた少年しょうねんは教えおしました。

三郎さぶろうは、この少年しょうねんをいままで一度ども見たみことがなかつたから、

「君きみは、だれだい。」と聞ききました。するとその少年しょうねんは、ちよつと顔かおを赤あからめて、

「僕ぼくは、君きみをとうから知しっているんだよ。」と答こたえました。そして、

「君きみに、池いけを教えおしてあげよう。」といつて、三郎さぶろうをあちらにつれてゆきました。すると、

そこに池いけがありました。三郎さぶろうは、この野原のほらの中なかにこんな池いけのあることをはじめて知しりま

した。ちよつど日ひが暮くれかかつて夕焼ゆうやけの赤あかい雲くもが静しずかな池いけの水みずの上うえに映うつっていました。

池いけの周しゅう圍いには美うつくしい花はなが、白しろ・黄きむら・紫さきさきに咲さいていました。

そのとき、少年しょうねんは足あしもとにあつた小石こいしを拾ひろつて、水みずの上うえに映うつっていた夕焼ゆうやけの紅あかい

雲くもに向むかつて投なげますと、静しずかな池いけの面おもてにはたちまちさざなみが起おこつて、夕焼ゆうやけの雲くもの

影かげを乱みだしました。しかし、それが、静しずまつたときに、その真まつ青さおな水みずの面おもてには、少年しょうね

年ねんの白しろい顔かおがありありと映うつつて、じつと三郎さぶろうの顔かおを見みつめて、音おとなく笑わらつたかと思おもう

と、たちまち消きえてしまいました。三郎さぶろうは、怪あやしんで、四辺あたりを見みまわしましたけれど、

空色そらいろの着物きものをきた少年しょうねんの姿すがたはどこにもなかつたのです。三郎さぶろうは、森影もりかげを目めあて

に、その日ひは家うちへ帰かえりました。

あくる日から、日暮れ方になって夕焼けが西の空を彩るところになると、三郎は野の方へと憧れて、友だちの群れから離れてゆきました。ある日のこと、彼はついに家へ帰ってきませんので、村じゅうのものが出て探しますと、三郎は野の中の池のすみに浮き上がって死んでいました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 2」講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

※表題は底本では、「空色《そらいろ》の着物《きもの》をきた子供《こども》」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：富田倫生

2012年5月23日作成

2012年9月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

空色の着物をきた子供

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>